

2025年12月28日 ルカ2：22-40

説教題 「今あなたの救いを見た」

### 【今日の説教から】

一年の最後の礼拝の時を迎えております。様々なことがありましたが、すべて神様に支えられ、導かれて今があることを感謝いたします。

最悪の状況、受け入れがたい、信じられない、信じたくない現実があるでしょうか。しかしながらザカリヤもエリサベツも、マリヤもヨセフも、後になってみれば神様のおっしゃったことは必ずなる、祈りは聞かれる、神様は万事を最善に導かれるという事を悟りました。

「すべての訓練は、当座は、喜ばしいものとは思われず、むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば、それによって鍛えられる者に、平安な義の実を結ばせるようになる。」  
(ヘブル12：11)

新しい年も神様への信頼と信仰により私たちは生かしていただけます。私たちには生きる道があります。

「エルサレムにシメオンという名の人がいた。この人は正しい信仰深い人で、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。また聖霊が彼に宿っていた。そして主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはないと、聖霊の示しを受けていた。」

私たちには慰めと救いが必要です。この傷付き疲れ果てた世界は主の慰めを受けなければ立ち行かないところにあります。皆が愛と慰めに飢え渴いています。救いを求めています。私たちもこの世界に主の救いが現れるのを、多くの方々の慰めと救いのリバイバルをこの目で見るまでは死ねないと熱く祈るとき、主が結果を見せて下さるでしょう。

皆様おはようございます。クリスマスが終わってから、先週末は降雪もあり、一気に真冬の寒さでした。お元気にお過ごしでいらっしゃいましたか。

2025年が終わろうとしています。今年もあと4日。皆様にとって今年はどんな年だったでしょうか。様々なことがあり、時には翻弄されたり、番狂わせだったり、想像もしない青天の霹靂のようなことがあったかもしれません。私は25日、クリスマスの日の夕方に自分のスマートフォンの機能のアップデートをしようと思い、パソコンでバックアップを取つてから、いつもはスマホ単体でアップデートするのですが、この日はパソコンでバックアップを取つた直後だったものですから、かつては時々やっていましたが、今回は久しぶりにそのままパソコン経由でアップデートを試みたのですが、待てど暮らせど先に進まず、何度も直しても先に進まず、サポートセンターに問い合わせ、解決策を何通り聞いても全く解決せず、それから今日で4日目となります。電話もラインもすべてつながらない状態が続いております。ご連絡をくださった方がいらっしゃいましたら失礼いたしました。塾の生徒さんから休みますとのご連絡があつてもなしのつぶて、今や家の電気もエアコンも、ドアの鍵さ

えスマホで管理しております、車に乗ってもナビも音楽もスマホ任せ、メモも、電話帳もスマホの中、あらゆる写真もスマホの中。今日の夕方に新しいスマホが届きました、パソコンの中にとっておいたバックアップをそこに取り込んで、無事に復旧すればやれやれと胸をなでおろすということですが、さてうまくいくのでしょうか。今更ながら、あらゆる災害にあって家や財産や家族を失われた方々の悲しみや絶望、やるせなさや痛みを痛感します。私たちはどこか皮膚がさきれ立つとそこから水がしみたりしますが、心に痛みを感じる時に、人の痛みがすこしでも分かるような気がします。こうしているこの時にも、どれだけ多くの方々が、不安や困難、痛みや絶望、失望や喪失の思いを抱えていらっしゃるのだろうと思います。ウクライナのきーうでまたろいあによる大規模な爆撃があったと聞きますが、戦争の地で人々は寒さに耐えています。先日も関越自動車道で大きな事故がありました。この呉の時、関係者の方々は頭を抱えていらっしゃることと思います。

この丸三日間、たったの三日間ですが、ひと時も手から離さずにあらゆるときに活躍していたスマホが何も応答しなくなり、いわば記憶喪失の状態になってしまっていまして、何を聞いても答えてくれなくなりました。私たちの家族や友人や、私たち自身が突如として病気になったりして記憶喪失になってしまったらこういうことになるんだなと思い、またこの世を去るという時にはもう話をしようと思ってもそうすることが出来なくなるんだなと考えます。しかし、私たちは病気の方も記憶を失った方も、死後天に引き上げられ、健康な体を、いやもっと素晴らしい、天上の体を頂いて、天でいつまでも幸せに生きる道があるということに感謝と希望があります。

## 序 1コリント15章

15:35 しかし、ある人は言うだろう。「どんなふうにして、死人がよみがえるのか。どんなからだをして来るのか」。

15:36 おろかな人である。あなたのまくものは、死ななければ、生かされないではないか。

15:37 また、あなたのまくのは、やがて成るべきからだをまくのではない。麦であっても、ほかの種であっても、ただの種粒にすぎない。

15:38 ところが、神はみこころのままに、これにからだを与え、その一つ一つの種にそれぞのからだをお与えになる。

15:39 すべての肉が、同じ肉なのではない。人の肉があり、獣の肉があり、鳥の肉があり、魚の肉がある。

15:40 天に属するからだもあれば、地に属するからだもある。天に属するものの栄光は、地に属するものの栄光と違っている。

15:41 日の栄光があり、月の栄光があり、星の栄光がある。また、この星とあの星との間に、栄光の差がある。

15:42 死人の復活も、また同様である。朽ちるものでまかれ、朽ちないものによみがえり、

15:43 卑しいものでまかれ、栄光あるものによみがえり、弱いものでまかれ、強いものによみがえり、

15:44 肉のからだでまかれ、靈のからだによみがえるのである。肉のからだがあるのであら、靈のからだもあるわけである。

15:45 聖書に「最初の人アダムは生きたものとなった」と書いてあるとおりである。しかし最後のアダムは命を与える靈となった。

15:46 最初にあったのは、靈のものではなく肉のものであって、その後に靈のものが來るのである。

15:47 第一の人は地から出て土に属し、第二の人は天から来る。

15:48 この土に属する人に、土に属している人々は等しく、この天に属する人に、天に属している人々は等しいのである。

15:49 すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。

15:50 兄弟たちよ。わたしはこの事を言っておく。肉と血とは神の国を継ぐことができないし、朽ちるものは朽ちないものを継ぐことがない。

15:51 ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。

15:52 というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。

15:53 なぜなら、この朽ちるものは必ず朽ちないものを着、この死ぬものは必ず死なないものを着ることになるからである。

15:54 この朽ちるものが朽ちないものを着、この死ぬものが死なないものを着るとき、聖書に書いてある言葉が成就するのである。

15:55 「死は勝利にのまれてしまった。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」。

15:56 死のとげは罪である。罪の力は律法である。

15:57 しかし感謝すべきことには、神はわたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちに勝利を賜わったのである。

15:58 だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあっては、あなたがたの劳苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである。

このように私たちには究極の慰めがあります。私たちの体も持ち物もいのちも、家族も友人も、全てがおじやんになってしまっても、それでも私たちは神様の手の中で守られているのです。

マタイ 10:1 そこで、イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた靈を追い出し、あらゆる病気、あらゆるわざらいをいやす權威をお授けになった。

10:2 十二使徒の名は、次のとおりである。まずペテロと呼ばれたシモンとその兄弟アンデレ、それからゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、

10:3 ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、

10:4 熱心党のシモンとイスカリオテのユダ。このユダはイエスを裏切った者である。10:5 イエスはこの十二人をつかわすに当り、彼らに命じて言われた、「異邦人の道に行くな。またサマリヤ人の町にはいるな。

10:6 むしろ、イスラエルの家の失われた羊のところに行け。

10:7 行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。

10:8 病人をいやし、死人をよみがえらせ、重い皮膚病人をきよめ、惡靈を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。

10:9 財布の中に金、銀または錢を入れて行くな。

10:10 旅行のための袋も、二枚の下着も、くつも、つえも持って行くな。働き人がその食物を得るのは当然である。

10:11 どの町、どの村にはいっても、その中でだれがふさわしい人か、たずね出して、立ち去るまではその人のところにとどまっておれ。

10:12 その家にはいったなら、平安を祈ってあげなさい。

10:13 もし平安を受けるにふさわしい家であれば、あなたがたの祈る平安はその家に来るであろう。もしふさわしくなければ、その平安はあなたがたに帰って来るであろう。

10:14 もしあながたをを迎えもせず、またあなたがたの言葉を聞きもしない人があれば、その家や町を立ち去る時に、足のちりを払い落しなさい。

10:15 あなたがたによく言っておく。さばきの日には、ソドム、ゴモラの地の方が、その町よりは耐えやすいであろう。

10:16 わたしがあなたがたをつかわすのは、羊をおおかみの中に送るようなものである。だから、へびのように賢く、はとのように素直であれ。

10:17 人々に注意しなさい。彼らはあなたがたを衆議所に引き渡し、会堂でむち打つであろう。

10:18 またあなたがたは、わたしのために長官たちや王たちの前に引き出されるであろう。それは、彼らと異邦人とに対してあかしをするためである。

10:19 彼らがあながたを引き渡したとき、何をどう言おうかと心配しないがよい。言うべきことは、その時に授けられるからである。

10:20 語る者は、あなたがたではなく、あなたがたの中にあって語る父の靈である。

10:21 兄弟は兄弟を、父は子を殺すために渡し、また子は親に逆らって立ち、彼らを殺させるであろう。

10:22 またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての人に憎まれるであろう。しかし、

最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

10:23 一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい。よく言っておく。あなたがたがイスラエルの町々を回り終らないうちに、人の子は来るであろう。

10:24 弟子はその師以上のものではなく、僕はその主人以上の者ではない。

10:25 弟子がその師のようであり、僕がその主人のようであれば、それで十分である。もし家の主人がベルゼブルと言われるならば、その家の者どもはなおさら、どんなにか悪く言われることであろう。

10:26 だから彼らを恐れるな。おおわれたもので、現れてこないものではなく、隠れているもので、知られてこないものはない。

10:27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを、明るみで言え。耳にささやかれたことを、屋根の上で言いひろめよ。

10:28 また、からだを殺しても、魂を殺すことのできない者どもを恐れるな。むしろ、からだも魂も地獄で滅ぼす力のあるかたを恐れなさい。

10:29 二羽のすずめは一アサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。

10:30 またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。

10:31 それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。

10:32 だから人の前でわたしを受けいれる者を、わたしもまた、天にいますわたしの父の前で受けいれるであろう。

10:33 しかし、人の前でわたしを拒む者を、わたしも天にいますわたしの父の前で拒むであろう。

10:34 地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。

10:35 わたしがきたのは、人をその父と、娘をその母と、嫁をそのしゅうとめと仲たがいさせるためである。

10:36 そして家の者が、その人の敵となるであろう。

10:37 わたしよりも父または母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりもむすこや娘を愛する者は、わたしにふさわしくない。

10:38 また自分の十字架をとってわたしに従ってこない者はわたしにふさわしくない。

10:39 自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう。

10:40 あなたがたを受けいれる者は、わたしを受けいれるのである。わたしを受けいれる者は、わたしをおつかわしになったかたを受けいれるのである。

10:41 預言者の名のゆえに預言者を受けいれる者は、預言者の報いを受け、義人の名のゆえに義人を受けいれる者は、義人の報いを受けるであろう。

10:42 わたしの弟子であるという名のゆえに、この小さい者のひとりに冷たい水一杯でも飲ませてくれる者は、よく言っておくが、決してその報いからもれることはない」。

イエス様は十二人の弟子たちを宣教に遣わされました。そこには大きな迫害があることが予想されました。しかし迫害者とて身体は殺せてもたましいには触れることが出来ない、そこには神様の深いお守りがあることが語られています。

10:29 二羽のすずめは一アサリオンで売られているではないか。しかもあなたがたの父の許しがなければ、その一羽も地に落ちることはない。

10:30 またあなたがたの頭の毛までも、みな数えられている。

10:31 それだから、恐れることはない。あなたがたは多くのすずめよりも、まさった者である。

神様の目は私たちに注がれています。私たちのすべての状況を、そして私たちの思いを神様は知っていてくださいます。私たちの問題を知っていてくださいます。そして神様は力に富んだお方であり、私たちが思う以上の解決を与えることの出来るお方なのです。

詩篇 139:1 主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました。

139:2 あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。

139:3 あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。

139:4 わたしの舌に一言もないのに、主よ、あなたはことごとくそれを知られます。

139:5 あなたは後から、前からわたしを囲み、わたしの上にみ手をおかれます。

139:6 このような知識はあまりに不思議で、わたしには思いも及びません。これは高くて達することはできません。

139:7 わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。

139:8 わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。

139:9 わたしがあけばの翼をかって海のはてに住んでも、

139:10 あなたのみ手はその所でわたしを導き、あなたの右のみ手はわたしをささえられます。

139:11 「やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ」とわたしが言っても、

139:12 あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、やみも光も異なることはありません。

139:13 あなたはわが内臓をつくり、わが母の胎内でわたしを組み立てられました。

139:14 わたしはあなたをほめたたえます。あなたは恐るべく、くすしき方だからです。あなたのみわざはくすしく、あなたは最もよくわたしを知っておられます。

ピリピ 4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

今日の聖書の箇所に入ります。

ルカ 2:22 それから、モーセの律法による彼らのきよめの期間が過ぎたとき、両親は幼な子を連れてエルサレムへ上った。

2:23 それは主の律法に「母の胎を初めて開く男の子はみな、主に聖別された者と、となえられねばならない」と書いてあるとおり、幼な子を主にささげるためであり、

2:24 また同じ主の律法に、「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定めてあるのに従って、犠牲をささげるためであった。

レビ記 12:1 主はまたモーセに言られた、

12:2 「イスラエルの人々に言いなさい、『女がもし身ごもって男の子を産めば、七日のあいだ汚れる。すなわち、月のさわりの日かずほど汚れるであろう。

12:3 八日目にはその子の前の皮に割礼を施さなければならない。

12:4 その女はなお、血の清めに三十三日を経なければならない。その清めの日の満ちるまでは、聖なる物に触れてはならない。また聖なる所にはいってはならない。

12:5 もし女の子を産めば、二週間、月のさわりと同じように汚れる。その女はなお、血の清めに六十六日を経なければならない。

12:6 男の子または女の子についての清めの日が満ちるとき、女は燔祭のために一歳の小羊、罪祭のために家ばとのひな、あるいは山ばとを、会見の幕屋の入口の、祭司のもとに、携えてこなければならない。

12:7 祭司はこれを主の前にささげて、その女のために、あがないをしなければならない。こうして女はその出血の汚れが清まるであろう。これは男の子または女の子を産んだ女の

ためのおきてである。

12:8 もしその女が小羊に手の届かないときは、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを取つて、一つを燔祭、一つを罪祭とし、祭司はその女のために、あがないをしなければならない。こうして女は清まるであろう』」。

清めのいけにえの箇所ですが、レビ記12章8節にはこのように書いてありました。

「もしその女が小羊に手の届かないときは、山ばと二羽か、家ばとのひな二羽かを取つて…」

ヨセフもマリヤも、富んだ家庭ではありませんでした。主はそういう家庭にお生まれになられました。讃美歌121「まぶねの中に」の歌詞(作詞:由木康牧師)の通りです。

- 1.馬槽の中に 産声上げ 木工(たくみ)の家に 人となりて貧しき憂い 生くる悩み つぶさになめし この人を見よ
- 2.食するひまも うち忘れて 虐げられし 人を訪ね 友なきものの 友となりて心碎きし この人を見よ
- 3.すべてのものを 与えし末 死のほか何も報いられて 十字架の上に あげられつつ 敵を赦しし この人を見よ
- 4.この人を見よ この人にぞ こよなき愛は あらわれたる この人を見よ この人こそ 人となりたる 活ける神なれ

2:25 その時、エルサレムにシメオンという名の人がいた。この人は正しい信仰深い人で、イスラエルの慰められるのを待ち望んでいた。また聖霊が彼に宿っていた。

2:26 そして主のつかわす救主に会うまでは死ぬことはないと、聖霊の示しを受けていた。

イスラエルの慰め。神の国になぜ慰めが必要なのでしょうか。神の国、しかしそこには逸脱がありました。イエス様が来られても祭司長・律法学者たちが無視して敵意をむき出しにして、主を十字架に追いやるという人の心の暗闇がありました。慰めが、救いが必要なのです。神の民がそうであるのならば、神様を知らない方のところではどうでしょうか。この世界全体を闇が覆っていて、人は皆傷付き疲れ果てているのです。しかしシメオンはあきらめずに祈り続けました。その老体に鞭を打ち、あきらめずに祈り続けました。彼は聖霊に満たされ、神様を信じ、神様の慰めを信じて祈り、この世界の救いのために祈り続けました。神様は彼の目が救いを見る、生きているうちにあなたの願いに応えると言わされました。

私たちにはそういう熱い祈りがあるでしょうか。祈りに応えてくださるまでは決して死ん

でも死にきれないという熱い深い祈りがあるでしょうか。そのようにして私たちも家族と友人と地域と国と世界のために祈り続けたいのです。

2:27 この人が御靈に感じて宮にはいった。すると律法に定めてあることを行うため、両親もその子イエスを連れてはいってきたので、

2:28 シメオンは幼な子を腕に抱き、神をほめたたえて言った、

2:29 「主よ、今こそ、あなたはみ言葉のとおりに／この僕を安らかに去させてくださいます、

2:30 わたしの目が今あなたの救を見たのですから。

2:31 この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、

2:32 異邦人を照す啓示の光、み民イスラエルの栄光であります」。

2:33 父と母とは幼な子についてこのように語られたことを、不思議に思った。

2:34 するとシメオンは彼らを祝し、そして母マリヤに言った、「ごらんなさい、この幼な子は、イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために、また反対を受けるしとして、定められています。——

2:35 そして、あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。——それは多くの人の心にある思いが、現れるようになるためです」。

万民、異邦人という言葉があります。これは全世界の救いです。全人類の救いです。

「イスラエルの多くの人を倒れさせたり立ちあがらせたりするために」。

倒れるとは、今までの自らの非を認めて神様の前にひれ伏すということ、そこに「立ち上がる」道があるのではないでしょうか。

「反対を受けるし」として「多くの人の心にある思いが、現れるようになるため」、これも人の神様への敵意と反逆の思いがあらわにされ、人の罪が余すところなくあらわされることを意味します。神様を畏れかしこんでは迎えるべき人たちは皆、イエス様を十字架に追いやり、そして多くの民も「バラバを釈放せよ、イエスを十字架にかけよ」と言ったのですから。しかしその罪が定かになったところに救いが現れるのです。病気と診断されたところに医者の働きが始まるのです。

ルカ 5:20 イエスは彼らの信仰を見て、「人よ、あなたの罪はゆるされた」と言われた。

5:21 すると律法学者とパリサイ人たちとは、「神を汚すことと言うこの人は、いったい、何者だ。神おひとりのほかに、だれが罪をゆるすことができるか」と言って論じはじめた。

5:22 イエスは彼らの論議を見ぬいて、「あなたがたは心の中で何を論じているのか。

5:23 あなたの罪はゆるされたと言うのと、起きて歩けと言うのと、どちらがたやすいか。

5:24 しかし、人の子は地上で罪をゆるす権威を持っていることが、あなたがたにわかるために」と彼らに対して言い、中風の者にむかって、「あなたに命じる。起きよ、床を取り上げて家に帰れ」と言われた。

5:25 すると病人は即座にみんなの前で起きあがり、寝ていた床を取りあげて、神をあがめながら家に帰って行った。

5:26 みんなの者は驚嘆してしまった。そして神をあがめ、おそれにお満たされて、「きょうは驚くべきことを見た」と言った。

5:27 その後、イエスが出て行かれると、レビという名の取税人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従ってきなさい」と言われた。

5:28 すると、彼はいっさいを捨てて立ちあがり、イエスに従ってきた。

5:29 それから、レビは自分の家で、イエスのために盛大な宴会を催したが、取税人やそのほか大ぜいの人々が、共に食卓に着いていた。

5:30 ところが、パリサイ人やその律法学者たちが、イエスの弟子たちに対してつぶやいて言った、「どうしてあなたがたは、取税人や罪人などと飲食を共にするのか」。

5:31 イエスは答えて言われた、「健康な人には医者はいらない。いるのは病人である。

5:32 わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」。

2:36 また、アセル族のパヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。彼女は非常に年をとっていた。むすめ時代にとついで、七年間だけ夫と共に住み、

2:37 その後やもめぐらしをし、八十四歳になっていた。そして宮を離れずに夜も昼も断食と祈とをもって神に仕えていた。

2:38 この老女も、ちょうどそのとき近寄ってきて、神に感謝をささげ、そしてこの幼な子のことを、エルサレムの救を待ち望んでいるすべての人々に語りきかせた。

2:39 両親は主の律法どおりすべての事をすませたので、ガリラヤへむかい、自分の町ナザレに帰った。

人の本心が現れ、「あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう」、そういう心が刺し通される痛みをも感じるでしょう。しかし私たちもまたそういう罪ある世の中での癒しのために先に救われ、慰められ、遣わされているのです。ですから私たちも、この世界への大きな救いを信じて、見るまでは死んでも死にきれないと祈り続け、冷たい水を懸けられても、困難を感じても、決してあきらめずに祈り続けたいと願うのです。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。一年の終わりに、  
神様のお優しいお導きとお慰め、そしてあなたの力強い救いのお働き  
があったことを深く思い、感謝いたします。番狂わせ、不運、転落…、  
ありとあらゆる困難の中にあっても復活の主が共にいて下されば何を  
恐れことがあるでしょう。どうか新たな年も私たちを慰め、力づけて  
ください。あらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下  
さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い  
下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン